プリンセス 小公女セーラ

第32話

『壁の向う側の秘密』

AR台本

企画 制作 日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第三十二話『壁の向う側の秘密』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中西妙子
アメリア……………梨羽由記子
ベッキー……………鈴木三枝
ピーター……………坂本千夏
モーリー……………向殿あさみ

ジェームス……………郷里大輔

クリスフォード……………

カーマイケル……………屋良有作

ドナルド……………堀江美都子

ジャネット……………坂本千夏

ラムダス……………

カメラ	画面		音声
1	回る車輪のUP　FOLLOW		
2	走る馬　FOLLOW		
3	二階の出窓へ急いで寄るベッキー （↗目線追う）		
4	追うベッキー　馬車走っていき隣りの家の前で止る　馭者——下りて看護婦、つづいて医者がおりる		
5	ガラスに顔をこすりつけるようにして見るベッキー　呟く		ベッキー「……お医者様……!!」
6	出窓で見つめているベッキー		
7	登ってくるセーラ　小卓をささげもっている　三階に行きかけるが　?!　となって止る　小さ		セーラ「……ベッキー……ベッキー」

	な声で呼ぶ		
8	ベッキー出て来る 自信ありげにそんなこと大丈夫というように手を振り手前に来るベッキー		ベッキー「……あら……お嬢様!!」 セーラ「早くしないとだめじゃない！」 ベッキー「いいえ……それより……お隣り……急いでお医者様が……」
9	はっとなるセーラ　T・U（早い）		セーラ「まさか……御主人の病気が悪くなっているのでは……」
10	御主人を見上げて悲しそうに啼くボリス		ボリス「ウオン――ウーオン――！」
11	オレンヂに噛りついているハリジャン　いきばって皮をむこうとして手からころげおちるオレンヂ　あわててオレンヂをつかむハリジャン はっとなって思わず手からオレンヂを落とすハリジャン　ころがりoutするオレンヂ		ボリス(off)「ウ――!!」

12	振り向いているボリスの足許にころがるオレンヂ　ボリス、鼻先でオレンヂのにおいをかぎ手でもてあそんでから、ぽいとハリジャンの方へころがす		
13	ころがるオレンヂ　ハリジャンの方へ		
14	ハリジャンの方へころがるオレンヂ　ハリジャン、手で止めてつかんで急いでソファのかげへ噛みつくハリジャン		
15	ボリス、御主人の方を見て啼く ——力なくクリスフォード氏の手がボリスの頭をなでる、甘えるボリス		
16	オレンヂを噛るハリジャン		S・E　（扉の開く音）
17	入口に立ち礼をするラムダス		ラムダス「御主人様……お医者様をお呼びして参りました……」

	手を口にあて咳をするクリスフォード　ラムダス後を向く	A・C	クリスフォード「ゴホーゴホーゴホ……!!」
18	医者うなづいて後の二人の看護婦を振り返りうながして手前に来る――		
19	よけて入口に立つラムダス入っていく医師を先頭にした看護婦二人――つづいてラムダス入って扉静かにしめられる		
20	ベッドで、朝食のトーストを食べているミンチン　気どった食べ方である　奥で紅茶をポットから注いでいるセーラ　注ぎ終ったセーラ軽く会釈して去る　（Fr・out）　一人トーストを食べるミンチン――紅茶を呑む		
21	卓の上の料理　カップが置かれる　ベーコンを切るミンチンの手		

22	ベーコンを口に入れ食べるミンチン――満足げな顔である　ナプキンで口の周りを軽く拭くミンチン（チョンチョンと口の上からおさえるように）		
23	円卓の前で立っているセーラ 口を拭いているミンチン う〜となって扉の方を見るミンチンとセーラ		S・E　（扉の開く音）
24	にっこり笑みを見せて軽く会釈するアメリア（浮き浮きしているのです）身も軽く扉をしめるアメリア　手前にくる		アメリア「お早うございます……お姉様！」 ミンチン(off)「お早よう！…… 〜 食事はすんだのね……」 アメリア「ええ……とうに……ね……お姉様、お聞きになりまして？　お隣りに越して来た御主人のこと……」 ミンチン「隣りが、どうしたと云うのです」
25	明るい微笑でアメリアの横へ ミンチン、食卓に手をのばす 興味なさそうに茶をのみ		
26	ちらりと二人の方を見るセーラ		

27	大仰に言うアメリア		アメリア「モーリーが聞いて来た噂ですとね、インドで大鉱山を経営していた、大金持ちのイギリス紳士なんですってよ！」
28	はっとなるセーラ（ＢＧは26兼用）		
29	キリリと動く眉毛 かすかに下るカップをもつ左手		ミンチン「インドで鉱山?!」
30	アメリア、はずむように叩頭して宙を見上げ　胸の前で手を合せて心ここにあらずといふ風情で窓の方へ行く		アメリア「ええ……御病気とかで引上げて見えた様子ですけど……まだ三十代でその上、独身…… 〜〜〜
31	のぞき見るアメリア（トナリの家を）		なんですってよ！」
32	ゆれる紅茶の表面にキリキリと眉毛の動くミンチンが映っている		
33	こきざみにふるえながらナプキンをつかむ手 振り返り窓によりかかるアメリア		アメリア「ね……おねえー様!! ……私、お隣り同志として……御挨拶

	ア		に上っておこうかしら……！」
34	怒鳴るミンチン　ナプキンを強くにぎりしめる　カップ台にあたり飛び散る紅茶（少しだけにする）		ミンチン「アメリア！」
35	直立不動のアメリア		アメリア「は……はい！　お姉様!!」
36	いかりに震えるミンチンの口唇 じっとにらみつける ジロリと上目使いのような目付でセーラの方を見るミンチン		ミンチン「なにが……なにがインドで大鉱山よ！」
37	うつむいているセーラ		
38	じっとセーラを見つめるミンチン——ぬすみ見るように見るアメリア　ミンチン口許に笑みさえ浮べている（皮肉な） T・U　（うと口唇をかみ耐えセーラ）		ミンチン「……フン……ここにも居ます！…… ダイヤモンド鉱山とかで、さんざん人を騙して……挙句の果てに、破産して死んだ男の厄介娘がね……」

39	握られたセーラの手がかすかに震えている		
40	セーラを見つめているミンチン フーと息を吐き、手をのばして紅茶のカップをとり――呑む T・U　カップを下ろして ナプキンで拭きながらアメリアの方を見て		ミンチン「全く、想い出すだけでも、腹が立つわ……アメリア！」
	A・C		
41	ミンチン、バカにしたように		アメリア「はい……お姉様！」 ミンチン「大方、隣りの男もインドでひと山当てようとした山師に決っています。病気なら結構、いづれどこかへ出て行くでしょう、……わざわざ附合う必要なぞ毛頭ありませんからね」
42	ナプキンをたたみながら――口許に笑みを浮べているミンチン ナプキンを卓にのせる アメリアの方を見る		
43	不満げな表情で ミンチンから目線をはなしてうつむく		アメリア「……はい……お姉様……」
44	アメリアを皮肉な目で見つめて		

	いるが――セーラの方を見て		ミンチン「下げて頂戴！」
45	うつむいていたセーラ、振り返り		セーラ「はい……！　院長先生！」
46	寝ているシーザー 目を開けものうげに見上げる―― シーザー見送っている　踊場に 現れるセーラ止り外を見る		S・E（扉の開閉） S・E（セーラの階段を下る音）
47	外を見つめるセーラ 目を伏せて考えるセーラ		セーラⓂ「お隣りの御主人が……お父様と同じ ようなお仕事をしていたなんて……」
48	じっとしているセーラを上から 見つめているシーザー――間―― ややあってから二階の方へ下り ていくシーザー見下ろしている		
49	かき棒で炉の中を掃除するベッ キー　下で灰が舞い上る		
50	窓の外を見ているジェームス 椅子に腰をおろしているモー		モーリー「そうともさ……なにしろ鉱山に手を 出す位危い事はないって話だからねー」

	リー　ジェームス、窓によりかかり帽子であおぎながら、モーリー立ち上り、卓の方へ行く		ジェームス「成功するのはほんの僅か、あとは注ぎこんで財産をスッテンテンにすっちまうか」
51	コップに水を注ぐモーリー		モーリー「お隣りの旦那みたいに病気をしょいこんで……
52	奥でベッキーが炉の下方から灰や燃えカスを十能ですくって石炭馬穴に入れている		(off) 引き上げてくるか……」 ジェームス「その両方かって訳だ……」
53	にやにやしながら喋るジェームス　モーリー来て、水の入ったコップをジェームスに渡す モーリー呑む　ジェームス呑む 二人はっとなって入口の方を見る		ジェームス「そんな例を身近かに見てるじゃねえか……財産をすっちまった上に、病気でおっちんぢまったセーラ親父……」 S・E　（カタリと物音・卓を置く音）
54	小卓をテーブルの上におくセーラ		
55	気色ばむジェームス 前へ出ていくモーリー		ジェームス「なんでェ！……そんなところで聞いてやがったのかー!!」

56	机の前へ行き		モーリー「下げて来たら、下げて来たって、 〜 ちゃんと云ったらよさそうなもんなのに……！」
57	いやみたっぷりにコップを卓にたたくようにおく		
58	頭を下る		セーラ「ごめんなさい……お話中だったものですから……」
59	二人顔を見合せていやーな顔をする		
60	じっと見つめるベッキー		
61	ジェームス前に出て来ていらいらとした面持ちで		ジェームス「ほれ……市場へ行く時間だ……！ 買い物は、先っきいった通りだ！」
62	いばりくさるジェームス		セーラ「ハイ……！ ジェームスさん……！」 ジェームス「う〜ん!!」
63	窓の方へ行くジェームス、ベッキーに身をのり出してドナル、 モーリー ベッキー、あわてて立ち上る		モーリー「ベッキー！ ボヤボヤしてないで、 そこが終ったら玄関の掃除だよ！」 ベッキー「ハ……ハイ！」

64	玄関　セーラ手に買物カゴをもって　ベッキー、水の入った馬穴をもち現れる（空ブタイ） 階段を上り、はっとなって隣家の方を見る二人　セーラ通りへ急いで出てくる（歩道）		
65	隣の門前にラムダスに送られて帰る医師と看護婦二人――アイサツ一言二言話して馬車にのり込む医師		
66	セーラの傍に来るベッキー、心配げな表情　セーラを見るベッキー　うなづいて隣りの方を見るベッキー		ベッキー「……お嬢様、お隣りの御主人様は余程お悪いんでしょうか……?!」 セーラ「……そうでなければ、いいのだけど…」
67	ラムダスに見送られて出発していく馬車		
68	じっと見送っている二人 T・U　T・U止まったところでセーラ隣りの家の方を見上げる		

69	隣りの家　↓PAN・D		セーラⓂ「お気の毒に……きっとあの方はインドでお父様と同じようにひどい目におあいになったのよ……そして、お父様と同じように、ご病気になったのだわ…」
70	隣家を見上げているセーラ うつむいていく…… 口唇をかみしめこらえている		セーラⓂ「そうよ……お父様と違うのは……あの方が助かって帰って来られたことだけ……」
71	↓PAN・DOWN　高架の下を来るセーラ		
72	高架の下をくぐって坂道を上る		
73	坂道を上って来て、ふと足を止めるセーラ		
74	小さな教会		
75	見つめるセーラ		
76	入って行くセーラ　73同		

77	教会のステンドグラス		
78	かごを置いて席につくセーラ		
79	十字架		
80	祈りはじめるセーラ #15-293 BANK		セーラⓂ「神様、どうかあのお気の毒な方がお 元気になれますように —— おめぐみを お与え下さい」
81	出て来て立ち止る神父		
82	祈りつづけるセーラを見つめる 神父		
83	同UP 神父		
84	いのるセーラ		
85	撒水車の水で遊ぶ子供たち		
86	そのUP		

87	通りすぎる小供たち	
88	奥へ行く小供たち	
89	コベントガーデン　買物を終えて　カゴをもって出て来る、ピーターとセーラ　止るピーター セーラの方を向く	ピーター(off より on)「そうだったんですか、おとなりにこして来た紳士が、旦那様と同じような仕事をねえ……」
90	心配そうにうなづくセーラ	セーラ「ええーその事を聞いて、私余計お隣りの御主人の御病気の事が心配になって……」
91	心配そうにセーラを見つめるピーター	
92	セーラもピーターを見つめている うつむいていくセーラ	セーラ「だって……亡くなったお父様も、きっとインドであの方と同じように病気で苦しんでいらしたんだわ……そう思うと…… 〜 とても他人の事とは思えないのよ――」
93	顔上げるセーラ 大きくうなづくピーター	ピーター「判りますよ……お嬢さんのお気持」

	歓声を上げて子供達が走り抜ける		
94	強い陽ざし　PAN・D　話しているパラソルの婦人たち		
95	アイスクリーム売りにむらがる子供たち		
96	歩いて行くセーラ		
97	フォロー、歩くセーラ、アツイ！		
98	やって来るセーラ　C＃98→から高級住宅街　ガス灯の前でカゴをおろして		
99	汗をぬぐって　もたれようとしてパッと手をはなす　上を見上げるセーラ、目をしばたく		セーラ　「アチッ！」
100	まぶしそうな空（高級住宅街）		

101	上を見ていたセーラ 握った手を見る 声がして 声の方を見て前に出て ?! となる		声（ドナルド）「パパーッ、早く来てぇ！」
102	停った馬車のしかれたジュータンの上で、玄関に向って手をふっているドナルド		ドナルド「早く……！」
103	はっとなるセーラ		
104	手をふっているドナルド 台詞終ってT・U 尻一杯に O・L		セーラ(off)「まあ、あの時の男の子だわ」
114～105	BANK O・L		
116	セーラ、ほほえみが浮ぶ		
117	セーラの方を見る少年（ドナルド）―― ?! となって手前に走る 止るドナルド セーラを見上げて		ドナルド「……あれ！……君は……?!」

118	セーラ微笑してやさしくうなづく		ドナルド「……あの時の人だね!!」 セーラ「……ご親切に、有りがとう御座いました」
119	首をてれくさそうに左右に振る ドナルド　照れかくしに急いで 手前にくるドナルド　一寸生いきに片足をぶらぶらさせながら…		ドナルド「いいんだよ……そんなこと……！ それより……ぼく……君にあやまらなくちゃ……」
120	くるりと振り返りのぞき見るように――		セーラ「え?……あやまるって……なんのことですの?……」
121	照れくさそうに、言いにくそうに言う、振り返り上目使いに		ドナルド「君を……可哀想な野菜売りの女の子と間違えちゃった事さ……」
122	顔を上げるドナルド セーラ、やや大仰にあきれかえるように		セーラ「え……?!」 ドナルド「お姉さんもママも君がとても上品で賢こそうだから……ほんとは昔、お嬢様だったかも知れないって……」 セーラ「……まア……!!」
123	身をのり出すように		ドナルド「……ほんとなの……?」

124	微笑して左右に首を振るセーラ きっぱりと真剣に		セーラ　「いいえ……そんなことないわ」
125	急に――　明るく微笑んで ぴょんとはね上るドナルド		ドナルド「なあ～んだ……！」
126	A・C ぴょんぴょんとはねて奥へ行く ドナルド　微笑んで見送るセー ラ		
127	A・C はずんで手前にくるドナルド 明く微笑してドナルドを目で追 うセーラ		
128	足がピタリと止る		
129	ひたり止るドナルド　くるりと 振返り 首を振るセーラ 一寸得意なポーズをとるドナル ド		ドナルド「ね……君……ぼく、今日、どこにお でかけか知っている?!」 セーラ「(微笑して) いいえ……」 ドナルド「へへん……！　パパの知り合いの所 へ、お見舞いに行くのさ」
130	セーラびっくり		セーラ　「……お見舞い……?!」

131	大きくうなづき　得いげに言う		ドナルド「その人、病気なんだよ……でも、ぼくとお姉さんが行くと、とても元気が出るんだって」
132	感心したように大きく叩頭する		セーラ　「……まア……！」
133	にっこりとするドナルド 振り返るドナルド		カーマイケル㋔「ドナルド……ドナルド！」 ドナルド「はあい……パパァー！」
134	玄関口に母が立ちカーマイケルとジャネット（手に花束をもっている）が出てくる		
135	振り返り手を上げて くるりと奥を向いて走っていく ドナルド		ドナルド「じゃ、またね……」
	A・C		
136	振り返り手を振るドナルド　手前に走る――　セーラも笑って手を振る		
137	出てくる一家　父の前にいき甘えるドナルド　三人（父、姉、		

No.	内容		
	ドナルド）乗りこむ、見送る母 出発していく馬車		
138	見送るセーラ		
139	奥へ行く馬車		
140	見送るセーラ　T・U		
141	歩くセーラ（ニッコリとしている）汗がにじんでいる FOLLOW		
142	足どりかるく、		

〈前半・了〉

143	明るい笑顔で行くセーラ FOLLOW		
144A	木もれ陽がキラキラと美しい (透過光) PAN↙		
144B	正面に学院が見える　手前から 奥へ行くセーラ		
145	公園の脇道から出てくるセーラ 隣の家の方を見て止る　?!　と なる　T・B　馬車が止ってい る		
146	隣りの家の前に止まっている馬 車（先程のドナルドの乗って来 た馬車です）		
147	?!　とした顔のセーラ　見つめ ている		セーラ　「又、誰方かお見えになっているわ…」
148	C#146兼用　セーラ、隣りの家 を見ながら、学院の方歩く　空		

	ブタイ		
149	カゴと買い物のかずかず		
150	大仰に叩頭して		ベッキー「はい……そうなんでございます……。 私が玄関の掃除をしていましたら……」
151	じっと聞いてるセーラ		ベッキー「おとなりにあの馬車が着きまして」
152	ベッキー、身をのり出すように ——笑みを含んで		ベッキー「中から……とってもかわいらしい、 小さなお客様がおりて来られて……」
153	興味をひくセーラ ハッとなる		セーラ「……小さなお客様?!」 S・E（扉の開く音）
154	顔を出すモーリー、セーラを見 て、にらむ		モーリー「……なんだ。帰ってたのかい——、 いいかげんなもの買ってこなかったろ うね」 セーラ「ハイ、モーリーさん！」
155	緊張するベッキー		モーリー(off)「ベッキー、次の仕事だよ」 ベッキー「ハイ！」

156	C ＃154兼用 不承不承うなづいて、扉をしめるモーリー		モーリー「暑いからってなまけてないで早くするんだよ……」 二　人「ハイ、モーリーさん」 モーリー「うーん!!」
157	ベッキー振り返る　顔見合わせる二人		
158	教室内		
159	掃除しているセーラとベッキー		
160	床をこするモップ		
161	懸命に床をみがいているセーラ、汗がにじんでいる		
162	床をこするモップ　ベッキーのモップも入ってくる		
163	汗のしたたるセーラとベッキー 顔を見合せる　ベッキー、手で		

	汗をぬぐうセーラ、休まずにモップをあつかう――ベッキーも直くモップをもち直して床をこすり出す		
164	ごしごししているモップ		S・E （ゴシゴシ）
165	フト顔を上げ壁の方を見るセーラ　振り向くベッキー セーラ、つかつかと歩いて out ? となって見るベッキー		セーラ「ネーベッキー」 ベッキー「はい？」 セーラ「この壁の向う側、丁度お隣りの居間に当るんじゃないかしら……」 ベッキー「ええー、まあそうでございましょうねエ……」
166	壁に耳をつけてきくセーラ		
167	?! となるベッキーも壁にいき耳をすます		ベッキー「お嬢様何もきこえませんか～」
168	C＃166兼用　書き足し　はなれるセーラ　うなづく		セーラ「……私、心配だったのよ……夏休みが終るとまた……～

169			この教室が使われるようになるでしょ」～ ベッキー「ええ……」
170	微笑むセーラ		セーラ「休み時間の騒ぎなんかがお隣りに聞えて……御病気にさわるんじゃないかしらって……」 ベッキー「まあー、お嬢様!!」
171	外を見つめているカーマイケル傍にボリスを置いた車椅子のクリスフォード　ボリス顔を上げ傍のクリスフォードを見上げる		
172	組まれた手をこねているのを見つめていたが、顔の方を見上げるボリス		
173	口唇をかみうつむきぎみにいらいらと手を握りしめこねるクリスフォード		
174	C＃171同P兼用書き足し　カーマイケル振り返り見て手前にく		

	る（ゆっくりと）　椅子に手をかけクリスフォードをのぞきこんで		カーマイケル「クリスフォードさん……」
175	手を握りしめじっとしているクリスフォードを見ていたが椅子に座るカーマイケル　身をのり出すようにクリスフォードを見つめて		カーマイケル「……実は、あのお医者が、あなたのご病気のことで、こう申したのです」
176	じっとうつむいているクリスフォード		
177	じっとクリスフォードを見つめながら うかがうようにぐっとのり出すカーマイケル		カーマイケル「……インドでかかった熱病は、……とうに直ってる筈だが御主人の御病気は……、もしかすると、……心の病気ではないかと……」
178	こねている手止る　―間―		off クリスフォード「当っているかも知れん……」
179	うーとなっていく分起き上るカーマイケル		

180	見上げているボリス		
181	身をのり出すようにして		カーマイケル「だとしたら～ご病気を直せるのはあなた御自身です」
182	じっとしているクリスフォード T・U（カット一杯）		
183	じっと見つめるカーマイケル グッとのり出してクリスフォードを見つめるカーマイケル		カーマイケル「……過去の悲しみをお忘れになって元気を取戻して頂かなくては……」
184	じっと動かないクリスフォード		
185	じっと見つめるカーマイケル T・B　じっと動かないクリスフォード		S・E　（足音――扉の開く音）
186	元気にドナルドが入ってくる カーマイケルの方へ走るドナルド――つづいてジャネット入って来る		ドナルド「パパ……！」

187	扉の方を見て口に手をあてる 入って来て止るドナルド　目を クリスフォードにうつし静かに 立ち上りドナルドの方へあるき 出す		カーマイケル「シイッ！……！」
188	ぼう然としているドナルドの後 に来て止るジャネット　カー マイケル、近づいてドナルドの 肩に手をおき小声で カーマイケルの腕ごしにクリス フォードの方を見るドナルド—— 後からドナルドの背を小突くジ ャネット——振り返り見るドナ ルド　ジャネット、ドナルドを のぞきこむようにして小声で 不承不承うなづくドナルド はっとなり親子クリスフォード の方を見る（カーマイケル、手 を肩からはなす）		カーマイケル「ドナルド……いい子だから、静 かにしてるんだよ……」 ジャネット「だからいったでしょう」 クリスフォード「ドナルド、〜〜〜〜〜〜
189	クリスフォード		ジャネット……ここにおいで……」

190	ドナルド・ジャネット顔を見合せてから、カーマイケルの方を見上げる二人 A・C		
191	父の方を見上げる二人　カーマイケル、二人の方を振り向き、うなづいて（行け）、手を背に回して二人を押しやる——二人あるいていく		
192	やさしい笑顔を浮べて二人の来るのをまつクリスフォード		
193	クリスフォードの前に立つドナルドとジャネット　一礼する弟姉　つかつかと前に来るドナルド		ドナルド「……ごめんなさい、クリスフォードさん……」
194	車椅子のひじに手をかけ中腰になるドナルド 頭を下げるドナルド		ドナルド「……ぼく、パパとのお話、もう終ったと思ったんです……」
195	やさしく見つめるクリスフォー		

	ド　クリスフォードの手がドナルドの手の上に置かれる		
196	やさしく撫でるクリスフォードの手――顔を上げ手を見る―― 次にクリスフォードを見上げるドナルド		
197	やさしく微笑む		クリスフォード「そんなことはどうでもかまわんよ……それより、なにをして私をまっていてくれたのだね」
198	除々に口許がほころび笑みが浮ぶドナルド		ドナルド「ぼくたち、ラムダスさんと一緒に屋根裏部屋へ上ってたんです」
199	目を細めてうれしそうな表情 C#197兼用書き足し		クリスフォード「ほう……面白かったかね」
200	明るくうなづくドナルド 後を振り返り姉に同意を求める うなづくジャネット　笑みを浮べながら前に出る		ドナルド「ええ……とても……」
201	口許に笑いが浮んでいるカーマ		ドナルド(off)「ラムダスさんに聞きましたよ……

〜

	イケル		〜〜〜
202	明るくクリスフォードに話しかけるドナルド にこにこしているクリスフォード		この間、お猿が、お隣りの屋根裏部屋に逃げこんじゃったんですって!!」 クリスフォード「うん！ そのようだったな…」
203	元気のいいドナルド 苦笑するジャネット―― 弟姉、顔を見合せて笑う		ドナルド「残念だなあ、ぼくがいればすぐ捕えてあげたのに……」 ジャネット「まあ……ドナルドったら……」
204	弱々しくうなづきながら微笑む クリスフォード		クリスフォード「ウンウン……フフフフ…！」
205	三人顔を見合せて笑う		
206	椅子に手をかけ		カーマイケル「さ、ドナルドにジャネット…… 〜 お父さんたちはまだ大事な話が残っているんだ」
207	一同、カーマイケルの方を見る 立ち上るドナルド　うなづくカーマイケル　満足げに微笑する		ドナルド「はい、パパ……」

	クリスフォード ドナルド、クリスフォードを見る　元気に返事して歩いてoutするドナルド		クリスフォード「では、すまんが、ドナルド…私のためにそれを引いておくれ」 ドナルド「はい！」
208	ダンロの傍の引きひもをひくドナルド にっこり笑うクリスフォード 照れた笑いのドナルド やさしくうなづくクリスフォード　二人扉の方を見る		S・E　（遠く鈴の音） クリスフォード「有りがとう……ドナルド……」 ドナルド「役に立つことならなんでも……」 S・E　（扉のひらく音）
209	戸口に立つ礼をするラムダスの肩の上にハリジャンが乗っている		ラムダス「お呼びでございますか……御主人様」
210	一礼するラムダス ドナルド、ジャネット、クリスフォードに会釈する		クリスフォード「この子たちと遊んでいておくれ」 ラムダス「畏まりました……さ……参りましょう」 ドナルド「うん……！」

211	肩の上のハリジャン喜んでさわぎ——下へ飛びおりる		
212	床におりたハリジャンぴょんぴょんはねて喜んでいる——ドナルドとジャネット来る——ハリジャン、インド風（ラムダスのオジギ）の礼を二人に向ってするくさりをドナルドに渡すラムダス　ハリジャン出ていくつづく二人		
213	C＃210兼用書き足　ラムダス一礼して出ていく 扉の方を見ていたクリスフォード、カーマイケルの方見る カーマイケル、クリスフォードを見る		S・E（扉のしまる音） クリスフォード「有難う……カーマイケル君…… 〜〜〜〜〜 君の子供たちが来てくれると……心に苦しみをもっている私も……少しは元気が取戻せるような気がするよ……」
214	T・U（ゆっくり、頭から）尻止 弱々しい微笑を浮べる		

215	軽く会釈するカーマイケル		クリスフォード「君は……私の顧問弁護士として…… 充分に私の苦しみを解ってくれている 筈だな……」
216	身をのり出し懸命な表情で		
217	前に出て大きくうなづく		カーマイケル「……勿論ですとも……」
218	身をのり出し車椅子のひじかけをつかみ必死な表情で 口唇をかみしめカーマイケルを見つめる		クリスフォード「……私は……！ どんな事をしてでも親友ラルフの――娘を探し出さねばならないのだ……（！）」
219	うなづくカーマイケル		
220	C＃兼用　書き足しじっとにぎりしめられる手　うつむいていく――震える口唇　T・U　尻止めなし		
221	セーラの手が上下して洗濯をしている泡が飛びちる 21話ーC＃1兼用		

222	汗をたらしながら洗濯するセーラ		クリスフォード(off)「生きていればどこかにいる筈だ…… ……そして、その子が頼る者もなくお金にも、〜〜〜 恵まれていないとしたら〜 それは私のせいなのだよ」
223	21話－C＃5兼用　山のような洗濯物と懸命に洗うセーラ BANK		
224	BANK		
225	BANK		
226	入ってくるモーリーきっとなってにらみどなる		モーリー「まだ終らないのかい！ いつまでかかるんだよ！　仕事は洗濯ばかりじゃないんだからね!!」
227	ガミガミどなるモーリーに振り返りうなだれるセーラ		
228	うつむいているセーラ　顔に流れる汗―― オコル、モーリー T・U（ゆっくり）　尻止		クリスフォード(off)「可哀想に……その子は我々がここにこうしている今も……何処かで辛く、苦しい暮しを続けているかも知れないのだ……」
229	苦しそうに目をつむりうつむい		クリスフォード「……うう……う……その子を

	ていく　クリスフォード 指をたてて頭をかかえる——震 える手	……そのような不幸におとし入れた責 任は……全て……この私にあるのだ… …！……ク、ク、クッ……ク、ク……」
230	ひじかけを握る手が震えている クク～ンククンと啼くボリス	
231	頭をかかえるクリスフォードを じっと見守るカーマイケル　身 をのり出すカーマイケル	カーマイケル「……クリスフォードさん、 ～ そのように自分で自分をお責めになっ てはいけませんよ……」
232		
233	静かに首を振るクリスフォード T・U がっくりと手を下ろす	クリスフォード「……私は……イートンで一緒 に学んだ親友、ラレフを破滅させてし まったのだ……」
	A・C	
234	はっとなって見るカーマイケル 力なくたれる手がっくりとうな だれているクリスフォード （自分へのいかり）手に力が入 っていき車をにぎりしめる	クリスフォード「……そして今、彼と共同で経 営していた鉱山が、うまく行って、二 人の夢がすべて実現したと云うのに…

235	震える口唇をかみしめて　激怒の面持でゆっくりとおき上るクリスフォード		そのラルフの一人娘は、行方さえ知れないのだ……クックック……ク……クク……」
236	車輪をにぎりしめている手——力が入る　廻る車輪前に出る——		
237	C＃235兼用書き足し車輪を廻すクリスフォード前に進む		
238	心配げな表情のカーマイケルの前を車輪が行く		
239	見送っているボリス		
240	カーマイケル立ち上り、　手押車を押して窓の方へいく		
241	止る　クリスフォード窓の外をじっと見つめている		

242	公園の樹上にひろがる青い空		
243	C#241兼用書き足し　悲痛な表情からいくらか柔かいものに変っている　T・U　尻止め		クリスフォード「ラルフは、一人娘の事をよくフザケて私の小さな奥さん、と呼んでいたよ……こうしてこの青い空を見つめていると元気だった頃のラルフの顔が浮び上って来るのだ……」
	O・L		
244	真白なバックに浮び上るクルーのシルエット（透過光）		クリスフォード(off)「……そして私に向ってこう云うんだ…… ……トム、私の小さな奥さんは……どこにいるんだね……と……」
245			
	O・L		
246	カット目を見開き震える口唇、興奮しているクリスフォード		クリスフォード「……私は……ラルフに返事をしなければならない……！」
247	強く握りしめられる手		クリスフォード(off)「どうしても…… 〜 どうしても、その子を探し出さなければならないのだ！」
248	激昂してくる 力をこめて立ち上る		
249	足許に落ちる毛布		

250	はっとなり車に力を入れておさえるカーマイケル	
251	口を開き空を見つめ震えているクリスフォード　荒い息を吐いている　T・U	
252	青い空に白い雲	
253	じっと宙を見つめている荒い息——間——震える口唇、悲痛な顔がうなだれていく	
254	懸命に支える手震える（ゆれるベルトと袖口）ひじがおれ、がっくりと腰を落とすクリスフォード——悲痛な表情である口唇をかみしめ、じっと一点をにらむ	
255	動かない二人	
256	クリスフォードを心配げに見て	カーマイケル「気をお静め下さい、クリスフォ

	目をつむっていくクリスフォード　カーマイケル毛布の方へout		ードさん……その子が見つかりさえすれば……ラルフ氏の残した財産をそっくり譲ってあげる事が出来るのですから……」
257	床に落ちた毛布をひろうカーマイケル　毛布をもって立ち上りひざに掛けていく		
258	毛布をかけて　後に回るカーマイケル　ゆっくりと前におすように回り出す		
259	車椅子を押してダンロの前で止る——カーマイケル車椅子からはなれ右側のソファーの方へ歩く		
260	手をぎゅっと握りしめるクリスフォード		クリスフォード「ラルフの分だけではない……私は罪ほろぼしに、私の財産全てを、その子に譲ろうと決心しているのだよ」
261	静かに頷くカーマイケル		カーマイケル「お話の様子では、その子の亡くなった母親は、フランス人だったようですね……」

262	弱々しく語るクリスフォード		クリスフォード「……その通りだ、……だから私はラルフが一人娘を留学させた先は、パリに違いないと考えているんだよ……」
263	頭を後にもたせかけ――大きく吐息を吐く 目にかすかに泪がにじむ――目をとじると泪がこぼれる		クリスフォード「確かな証拠は、なにひとつない……だが……あのラルフが一人娘の教育を是非愛する妻の母国でと考えるのは当然だろう」
264	ククーンと啼くボリス		
265	立ち上るカーマイケル		カーマイケル「判りました……では、早速パリ中の寄宿学校を当って手掛りを探して参りましょう」
266	身体をおこして 哀願するように見つめる		クリスフォード「頼む……！」
267	大きくうなづくカーマイケル		クリスフォード「……私が自由に動ける身体なら……是が非でも君と一緒に行くところなのだが……」
268	身をのり出して　前に出るカーマイケル		

269	自信たっぷりに	カーマイケル「御心配なく……」
270	ひじかけにのせたクリスフォードの手をトントンとやさしく叩きながら	カーマイケル「……しかしせめて……その子の本名だけでも判っていたら、話は早かったのですが……」
271	悲しそうな顔を左右に振ってうつむいていく	クリスフォード「……無理だ……! カーマイケル君……。私はラルフからその子の本名を聞いたかどうかさえ想い出せないでいるのだ!……!!」
272	口唇を噛んで心配そうに見守るカーマイケル	
273	悲痛な顔―― トントンとひじかけをたたき―― 苦しそうな表情――叩いた手を強くにぎりしめる 急に両手で頭をかかえる	クリスフォード「ああ……! きっと……あの恐ろしい熱病が……! ウ……ウウ……ウ……私の……記憶を根こそぎ焼き払ってしまったのだ……!! ウウ……ウ……ウ……!」
274	C #272兼用書き足し ぼう然と見守るカーマイケル（一度口をあけ↓しめていく）	

275	C#273兼用書き足し　肩を震わし慟哭する		クリスフォード「ウウ……ウ〜ッ!!」
276	震える毛布　泪が落ちて毛布にしみていく		
277	うなだれるボリス		
278	見守るカーマイケル　慟哭するクリスフォード　T・U　尻止め		
279	学院の暗い廊下		
280	ランプの灯　T・B　アイロンをかけているセーラ		
281	汗を浮べてアイロンをかけるセーラ		
282	汗を流して仕事にはげむセーラ モーリー入ってくる――　ねむそうな目をこすり　はっとなって		モーリー「……う……！　いつまでも火を使ってるんだい！　院長先生に灯り代をや

	手を止め見るセーラ		かましく云われてるんだからねー!!」
283	いやみたっぷりに言ってブイと出ていくモーリー　セーラ仕事にかかる		セーラ　「ハイ……モーリーさん……」 モーリー「もたもたしてるんだから早くすまして寝るんだよ！」
284	C #281兼用		N　「
285	ゆれるランプの灯		
286	したたり落ちる汗を拭かずに仕事するセーラ		

＜おわり＞